

人工ホダ場内環境調査結果 I (4～6月)

1 はじめに

当センターでは、人工ホダ場と林内ホダ場及び林外との環境条件の違いを明らかにするために1年間温湿度調査を行った。その結果を4回に分けて報告する。

2 人工ホダ場の概要

当センター内に設置した人工ホダ場は、総面積520㎡の鋼材製一部木造、高さ4.5mの施設である。垂下式遮光資材の設置方向は南東―北西、設置間隔30cmである。

3 調査方法

当センター内の林内ホダ場及び人工ホダ場の高さ1.5mの百葉箱にサーモレコーダーを設置し測定を行った。さらに当センター内の気象観測装置によるデータを林外として比較した。調査時間は0時、3時、6時、12時、15時、18時、21時である。

菌興115号及び森産業290号の種菌を平成11年～平成15年に植菌したホダ木各50本を林内と人工ホダ場に配置した。発生したシイタケを採取し、乾燥させた後、植菌年次別に傘の直径を測定した。

4 期間中の温湿度変化ときのこの状況

4月～6月の調査時間毎の最高気温は、15時に記録されていた。15時の旬毎の平均気温は、発生期間である4月上旬から5月中旬までは、人工ホダ場は林内よりも高目に推移していた(図-1、4月下旬林内欠測)。

15時での旬毎の平均湿度については、林外及び林内と比較して人工ホダ場が低い値を示していた(図-2、4月中旬、下旬林内欠測)。

人工ホダ場内で採取された春子の傘の直径は、概ね林内より大きいものとなっていた。(図-3)

5 4～6月の人工ホダ場利用上の留意点

- (1) 日中は急激に気温が上昇しやすいため、出入り口を開けるなど通風を図る必要がある。
- (2) 気温上昇により開傘が進むことから、適期採取のため、見回り回数を多くするなど、適正な管理が必要である。

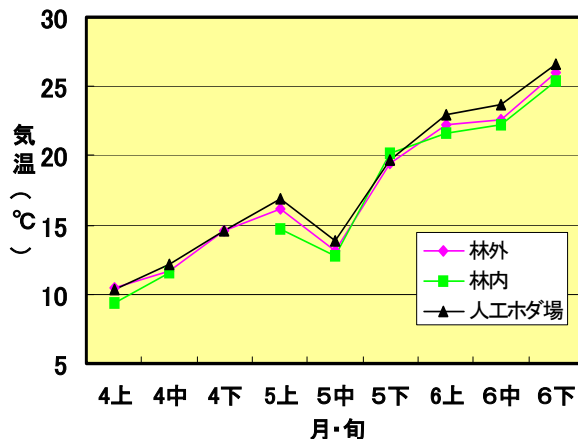


図-1 平成17年4～6月旬毎の15時の平均気温

注) 林内測定分4月下旬欠測、5月1日欠測分除きて5月上旬値求めた

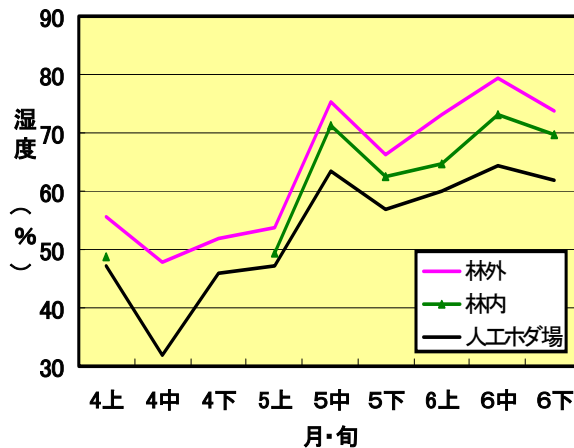


図-2 平成17年4～6月旬毎の15時平均湿度

注) 林内測定分4月中旬下旬欠測、5月1日欠測分除きて5月上旬値求めた

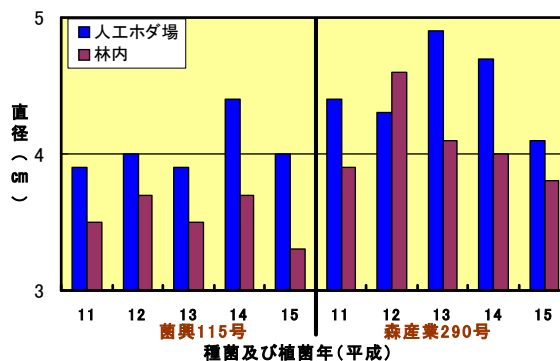


図-3 人工ホダ場と林内の平成17年春子の平均直径

(担当 林産利用部 上席専門研究員 小原孝文)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11
 岩手県林業技術センター
 ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>

TEL 019-697-1536
 FAX 019-697-1410